

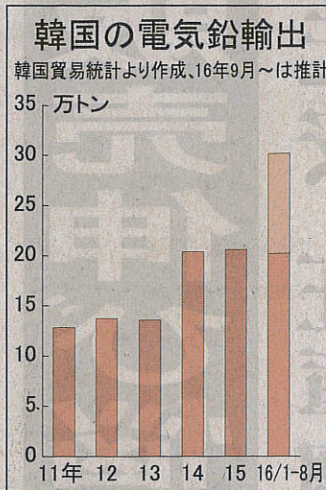
# 韓国の鉛輸出、最多ペース

## 一次製錬の設備増強映す

韓国の鉛地金輸出が過去最多のペースで推移している。同国の貿易統計によると、1-8月累計は前年同期比57・3%増の20万1413ト、過去最多だった2015年の年間実績に早くも並んだ。米国や欧州向けのスポット輸出増加に加え、アジア向けも回復。従来は二次精錬メーカーが輸出を牽引していたが、ここに至って一次製錬メーカーの増強設備が立ち上がり、年間30万トに達する勢いだ。

### 1-8月累計57%増

韓国は豪州に次ぐ世界第2位の鉛輸出国と見られている。14年に電気鉛の年間輸出量は20万トを超え、15年は



推移している。

1-8月の主な内訳を見ると、米国が前年同期比34・1%増の7万3291ト、インドが48・6%増の3万727ト、タイが18・4%増の2万4243ト、スペインが49倍の1万6954ト、ベトナムが41・9%増の1万6945ト、インドネシアが66・4%増の1万4555トなどと軒並み2桁増となっている。

始まり、14年は輸出の40%以上を占める最大相手国となった。背景には米国のバッテリー需要の好調もあったが、廃バッテリーとの交換貿易ルートが構築されたことが大きかった。

アジア向けはインドや東南アジアの需要回復に合わせて、売り込みを図っているようだ。今年に入り東南アジアでは、豪州とシェア争いを繰り広げている。また、前年に実績のなかったスペイン向けは7-8月に1万5000ト以上のまとまった数量を出荷しており、不定期の買いオフアーに対応していることが分かる。

同じく鉛関連加工品である自動車用鉛バッテリーの製品輸出も、1-8月累計で6・2%増の43万6170トと、5年連続で過去最多を更新する勢い。鉛重量ベースでは20万ト強に相当し、電気鉛と合わせると約40万ト、年間では約60万トと推計される。

今年こうした増勢は、アジア製錬大手の코리아ジンク(高麗亜鉛)が進めていた年産20万ト分の新製錬設備が本格稼働した影響のようだ。一方、二次精錬業の目安となる廃バッテリーの1-8月輸入量は、前年比1・6%減の28万9421トで、高水準ながら頭打ち。6月にはヒ素を含む精錬残渣の違法投棄で一斉摘発され、今後の廃バッテリー輸入に支障が出る可能性もあるが、鉛地金の輸出余力は十分ありそうだ。